朝日新聞 THE ASAHI SHIMBUN DIGITAL http://www.asahi.com/kansai/sumai/news/OSK201201210040.html
2012 年 1 月 21 日

# 増える男性介護者、見守って
# 誤解防止マーク普及の動き

介護マークを首から提げて買い物をする芦田豊実さん（右）と妻の節子さん＝京都市西京区

介護マーク

外出時、トイレで妻の介助をしたら不審者と間違われた――。そんな男性介護者の声を受け、静岡県が作成した「介護マーク」が全国に広がっている。男性介護者に首から提げてもらい、あらぬ誤解を避けようという知恵だ。

マークは名刺よりひと回り大きめ。「介護中」の文字を人の手が支える図柄で、「介」の字もよく見ると人が人を支えている。「認知症の人と家族の会」（京都市）が約５千枚を配り、厚生労働省も１２月にマークの電子データを都道府県に送った。当事者団体や自治体の窓口を通して普及を図る。

京都市西京区の芦田豊実（とよみ）さん（６３）は使い始めて半年近く。アルツハイマー型認知症の妻節子さん（６１）は自力で歩けるため、「助けが必要には見えない」。だが要介護度は最も重い５。食事や着替えにも介助が必要だ。「サイズもちょうど。他人の目が気にならなくなった」と話す。